

慶應義塾大学出版会

イチ押し

2022年10月新刊のご案内

文化人類学／現代思想 ご担当者さま

犬に話しかけてはいけない 内陸アラスカのマルチスピーシーズ民族誌

近藤祉秋（神戸大学大学院国際文化学研究科講師）[著]

四六判並製／240頁 税込予価 2,640円 ISBN978-4-7664-2845-2 C0039

👉 ココに注目！

- ・ 自然と社会を分かつ、「人間性」を新たに構築する人類学。
- ・ 日々変化する世界のなかで、アラスカ先住民から生きのびるヒントを学ぶ。

現在、自然と人間を分ける二分法に基づく人類学への反省から、他種との関係を通して人間を考える「マルチスピーシーズ民族誌」が勃興している。本書では、内陸アラスカ先住民と生き物との関わり、神話、禁忌を中心に「人間構築主義としてのマルチスピーシーズ民族誌」を構想。人新世を生きのびるための手がかりを模索する。

対象 文化人類学を専攻する学生・研究者、
現代思想（アガンベン、ラトゥールなど）に興味のある読者

類書 ティム・インゴルド『人類学とは何か』（亜紀書房）

【著者紹介】



静岡県出身。2009年早稲田大学国際教養学部を卒業後、同大学大学院文学研究科文化人類学コースに進学。在学中は内陸アラスカ先住民社会における現代の生業活動と人間—動物の関係をテーマに調査研究を行う。2011年同コースの単位取得退学後、北海道大学アイヌ・先住民研究センター助教を経て、現在は神戸大学大学院国際文化学研究科講師。博士論文の題目は「内陸アラスカにおける生業・宗教・生存の人類学的研究—信じる者は生き残る—」（博士（文学）早稲田大学）。

👉 主要目次、注文書を裏面に掲載！ ぜひご確認ください！

【主要目次】

はじめに ある日の野帳から

第1章 マルチスピーシーズ民族誌へようこそ

第2章 ニコライ村への道のり

第3章 ワタリガラスのいかもの食い——ある神話モチーフを考える

第4章 犬に話しかけてはいけない——禁忌から考える人間と動物の距離

第5章 ビーバーとともに川をつくる——「多種を真剣に受け取ること」を目指して

第6章 「残り鳥」とともに住まう——ドムス・シェアリングとドメスティケーション

第7章 カリブーの毛には青い炎がある——デネの共異身体をめぐって

第8章 コウモリの身内——環境文学と人類学から「交感」を考える

おわりに 内陸アラスカ先住民の知恵とは何か？



ご注文は FAX で！ 03－3451－3124



新刊委託	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
			近藤祉秋 著 犬に話しかけてはいけない —内陸アラスカのマルチスピーシーズ民族誌 ISBN978-4-7664-2845-2 C0039		

★1つで「500部」を表します